

<b>議事要旨</b>			
<b>会議名</b>	第22回 国立市環境ネットワーク会議		
<b>日時</b>	令和8年1月27日(火) 15:00~17:00	<b>場所</b>	地下食事休憩スペース
<p>【出席者】敬称略          会員団体：くにたち・まちづくり∞自転車倶楽部 末吉氏          アートウォーキング国立 大塩氏          ～つづく つながる～くにたちみらいの杜 前田氏          国立さくらネット 梶山氏</p> <p>事務局：名古屋（環境政策係長）、金子（環境政策係主任）</p> <p>【議事内容】</p> <p>○議事の前に、末吉会長から挨拶があった。          先日、都市計画マスタープランの策定に関して、環境問題の観点からも意見書を提出した。特にゼロカーボンシティを実現していく時代となった今、まちづくりについても主管課ごとに独立して取り組むのではなく、改めて組織横断的に推進していく必要があると感じる。環境ネットワークとしても設立から10年以上が経っており、成熟期を迎え会議に参加する会員は少なくなっているが、上記も鑑みて、活動の重要性は設立当初より高まっている。</p> <p>1. 各団体の活動報告</p> <p>○各団体より、活動の紹介・報告が行われた。          (時間の都合により、末吉氏、梶山氏の活動報告は割愛となった)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大塩氏(アートウォーキング国立)              くにたちさくら組としても活動している。大学通り緑地帯(大学通り遊園)を中心に市内で伐採された樹木等を活用し、箸、フォーク、スプーン等を作成する市民ワークショップを開催している(原則、毎週日曜日10時~12時に開催)。令和8年2月以降は、旧国立駅舎の東側でワークショップを複数開催予定であったが、一部については選挙の影響を受け、キャンセルとなった。</li> <li>・前田氏(～つづく つながる～くにたちみらいの杜)              第二小学校の新校舎改築事業に伴い伐採予定であった敷地内樹木について仮移植し、里親を募り本移植する活動をしている。令和6年に校庭に戻せない樹木の里親を探して本移植、同年10月に二小校庭に桜2本を本移植した。              2小の2本の桜の養生を、環境教育に資する活動として現在も継続しており、最近では令和7年12月に児童と共にメンテナンスをした。</li> </ul> <p>○その後、大学通り緑地帯の桜樹木の管理等について議論があった。          各委員からの主要な発言、事務局とのやり取りについて、以下のとおり要旨を纏める。</p> <p>(1) 大学通り緑地帯の樹木(実生木等)について、最近ピンクのマーキングテープが貼られている。現地で作業中の市職員に尋ねたところ、テープが貼られているものは剪定・伐採する予定との事であった。桜・銀杏以外の実生木も含めた植生も、大学通りにおける貴重な存在であり、いたずらに排除すべきではないと考えるが、市では桜も含め、緑地帯の植生について、どのような管理方針のもと意思決定をしているのか。また、受付窓口を教えてください。</p> <p>(事務局)</p> <p>→緑地帯の管理者は環境政策課 花と緑と水の係となる。緑地帯の一部植生にテープが貼られている件、剪定・伐採の目印ということであれば、緑地帯を適正管理する上での理由が必ずあると思う。緑の豊かな景観、生態系を守る観点からも、積極的に排除することは考え難い。詳細については、後日担当係に確認した結果を共有させていただきたい。</p>			

また桜の管理については、同じく花と緑と水の係が事務局となり、平成30年度に「大学通り全体計画検討会」を立ち上げ、沿道市民、ボランティア、学識者等の関係者とともに、緑地帯の桜の在り方について議論を重ねてきた。令和2年度には「大学通り緑地帯桜の管理方針」を策定し、特に伐採については単純な樹勢評価に加え、倒木時の安全面や外観状況、全体的に老朽化した桜の計画的更新の観点も取り入れ、管理を進めている。

(後日対応の追記)

緑地帯の一部植物にテープが貼られている件、後日、花と水と緑の係から下記内容を確認し、会議に出席した委員にメールで報告を行った。

- ・市では、大学通り緑地帯の維持管理の考え方として、桜や銀杏だけでなく、生物多様性の役割を担う動植物の生息場所として、また市民の憩いの場や地域の景観形成の場として重要な存在と考えている。
  - ・一方で、緑地帯内の実生木や近隣住民の方によって植えられた植物の中には、越境による通行の支障や見通しの悪さを招いているものも存在し、中には桜や銀杏と競合することで、特に老朽化した桜の樹勢を弱め、枝落ちや倒木のリスクを高める懸念がある。
  - ・今回のテープについては、上記を鑑みて、剪定（状況によっては伐採）すべき植物を検討・抽出した結果となるが、テープが貼られた植物の全てを撤去対象と捉えているわけではなく、成育状況等を踏まえ、係で検討・対応をしているところである。
- 上記報告に対して、一部委員からは、今般の植物管理の対応により、結果的に緑地帯の「生物多様性」が蔑ろにされる疑念がある旨、改めて指摘を受けたため、花と緑と水の係には内容を共有することとした。

- (2) 環境に対する市民意識、理解が薄れているように感じる。大学通りの桜を例に挙げると、春に桜が満開になると花見をするが、花見以外では関心のない方が多い。市民を巻き込み、見る人も一緒に育てていく必要があるのではないかと。

(事務局)

→係に日々寄せられるお声から、「環境」に関する価値観や考えも多様であると感じる。同時に環境問題はスケールが大きく、効果も長期的にみて実感できるため、一人ひとりが自分事として捉えるのが難しいのではないかと。危機感の醸成、仲間との存在、リスクの排除、活動による貢献の実感など、自分事化していただくための要素は複数あるので、引き続きイベント等の機会も通じて、市民に働きかけていきたい。

- ・その他、市民主体で緑地帯の桜を管理するため、以下の案が共有された。
- ・桜会議という場を設け、行政、市民等で話し合いをする
- ・樹木毎に管理する担当者を決め、意識を高めてもらうマイツリー案
- ・市民投票により No.1 の桜を決める桜コンテスト
- ・桜1本1本に名前を付けて、興味関心を持ってもらう

## 2. 環境フェスタの振り返り

○令和7年10月18日(土)に谷保第四公園で開催された環境フェスタでは、環境ネットワークとして「移動式えねこや」の出展をしたため、事務局から結果報告を行った。

前年度までの反省を活かし、来場者の導線を明確にする、多数想定される親子連れ向けに探検要素を取り入れた進行とする等の準備が奏功し、当日は約250名の来場者が訪れ大変盛況に終えることができた。

- ・各委員から、「えねこや」の効果をさらに高めるため、以下の発言があった。
- ・旧国立駅南口広場はPRには恰好の場。環境フェスタの開催場所として検討してはどうか。
- ・環境フェスタは年に1回のイベントであり、日常的に「えねこや」の体験ができるよう、例えば城山さとのいえに併設するなど、検討は続けてほしい。

## 3. 環境基本計画進捗状況報告について

○令和6年度環境基本計画進捗状況について、事務局より報告を行ったのち、下記のとおり意見が出た。

- ・15年計画も終わりに近づき、策定当時から社会状況も大分変化している。令和8～9年度にかけて計画改定を予定することだが、特にゼロカーボンシティ宣言が行われる時代となり、他環境問題にも大きく影響を及ぼす点も踏まえ、議論を深めてほしい。
- ・環境ネットワークとして、環境基本計画の進捗管理は大きな役割と思うが、会議の配布資料が膨大なため、この場で詳細に読み込み、発言することが難しい。本件のみでも、資料を事前配布する等の配慮をいただきたい。

#### 4. その他

○会議の中で出た課題を最終確認した。

以上